

土木建設の魅力紹介

都城工高で出前講座

都城市・都城工業高（二見宗英校長、687人）で、同市・大淀開発の社員による土木建設の出前講座があった。写真。建設システム科2年生約40人が、現場の声を直接聞き理解を深めた。

担任手不足解消に向けて、業界の魅力を伝え、地元就

職につなげようと総合建設の同社が企画。20日に開催した。

同社土木部の前村圭介課長補佐（44）が、以前は「3K」（きつい、汚い、危険）と言われた建設業を「かっこよく」説明。デジタル技術や人工知能（A



I）のおかげで少ない労働力でスマートに仕事ができ

るようになったとし「労働時間が減って休暇は増え、給与も上がった」と紹介した。同社が請け負う日南市の高速道の工事現場と教室を通信機器でつないだ工事概要の説明や、ドローン操作体験も行った。

岩佐花音さん（17）は「（業界の）最新技術など、いろいろなことを知ることができた」と関心を高めていた。（三輪誠）